

批評・紹介

Denis Baly : The Geography of the Bible. Harper & Brothers Publishers, New York 1957. 303 pp, 97 photo, 47 maps & Diagrams.

著者の Denis Baly は現在 Kenyon College (Ohio, U.S.A) で政治学を担当している。彼は英国 Liver pool University で地理学を専攻し、1937~1947 及び 1949~1954 の 15 年間 Palestine にあつて Mission School で教鞭をとつていた。この間、ラクダを除いては、全ゆる乗物を利用し、或は徒歩で現地をくまなく踏査し、palestine a "Personality of Land" を考察したのであつた。この書は、この 15 年間の実地研究を基とする 20 年間に亘る研究の集成である。

標題の中の Bible という語が示す様に、この書は西欧人のいわゆる "Holy-Land" の地誌であり、屢々 Old & New Testament の記述を引き Biblical period の Palestine と対比しながらこの地方の地誌を把握しようとした "A study in Historical Geography" である。

内容は Part I の概論、更に地域を小区分した地誌の Part II に分かれる。Part I では先づ Mesopotamia Plain と The Nile Valley を結ぶ bridge としての地理的位置の占める意義やそれが演じた歴史の展開から始め、次に多くの Page をさいてその自然的環境即ち、地質、地形、気候生物を叙し、更に人間生活即ち食糧生産、道路、集落は言及する。Part II では主として自然地域区分に沿いながら、各地域の地誌を Bible の記述と対比しつつ描くあまり知られていない Trans-Jordan が記述されているのが特色といえよう。

全体としての感じは、自然環境と歴史に重きがおかれ、例えば都市や集落の意含でも、その社会構造や、動態的機能の把握、描写にやや物足らなさを憶える。従つて叙述がやや平面的に流れているが、地誌の場合、已むを得ぬことかも知れない。しかし、地形と交通路、交通路と集落の関係など適切に描かれ、歴史の地理的背景を考えさせる。古代集落や古地名との対比をしつつの Palestine の地誌の記述は、独り地理学徒にとつてばかりでなく、歴史家や聖書学者にとつてもよい参考書となる。或いは地形や気候といった自然環境の記述は、むしろ地理学徒よりも、歴史家にとつてより示唆を与えるのではなからうか。筆者自身による 100 葉近い写真、10 頁を費した Bibliography はこの書の価値を高めている。更に Geological terms についての解説まで附せられているのは、地理学徒以外の人々までを対象として意図しながら書かれた著者の細心を示している。